

KONAN UNIVERSITY

## 所長挨拶（人間科学研究所開所式報告）

著者	森 茂起
雑誌名	心の危機と臨床の知
巻	5
ページ	5-7
発行年	2004-02-20
URL	<a href="http://doi.org/10.14990/00002498">http://doi.org/10.14990/00002498</a>

## 所長挨拶

森 茂起

甲南大学人間科学研究所の森と申します。今日はお忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。開所の挨拶としまして、まず、甲南大学人間科学研究所が設立されるまでの経緯を説明させていただきます。

甲南大学で臨床心理学の教育・研究が始まってからすでに長い年月が経過しています。従来は文学部社会科学科応用社会学専攻のコースでしたが、時代の期待や要請が高まるとともに、臨床心理学を学びたいという学生が急速に増加してきました。ここ一〇年、特にその傾向が顕著になってきました。同時に、臨床心理士という資格制度が始まり、一般化することで、臨床心理学を大学の中でどのように教育し、研究していくかが大きなテーマとなってきました。

その一方で、私自身を含め甲南大学で臨床心理学を教えているスタッフは、臨床心理学という学問の発展に関してある危機感を抱くようになりました。臨床心理学の母体の一つであり、私どもが特に準処してきましたのは、精神分析あるいは分析心理学（ユング心理学）などの深層心理学です。この学問は一九

世紀の医学の世界に起源を持ちますが、二〇世紀を通して、自然科学のみならず人文諸科学と深い関係をもちながら発展してきました。深層心理学の人間理解は、自然科学的思考法だけでなく、太古から歴史のある哲学や文学と強く結び合っていたわけです。そのことはフロイトが創始した精神分析が、二〇世紀の哲学や文学に深い影響を与え続けたところにも見て取れます。しかし近年臨床心理学の量的発展と制度化が進むにつれ、計量できる現象だけに注目し、統計的处理によって結論を導く、自然科学的方法論が重視されるようになるとともに、制度化によって求められる業務が変質し、人文諸科学との結びつきが希薄になっていくのではないかとという危惧を抱いています。

このような傾向に危機感を抱く私たちは、人文諸科学との結びつきをさらに強めながら、臨床心理学の教育・研究・実践を行なっていきたいと考えました。それが人間科学という名前を冠した学科をつくり、続いて大学院をつくり、そして今回研究所を作るという一連の事業に発展していったわけです。人間科学科では、今は臨床心理学に時代の光があたっているため学生



数などで臨床心理学に比重がかかっていますが、理念的には臨床心理学と人文諸科学との対等の協力による人間研究をつたい、相互に密接な関係を持ちながら研究・教育を行なおうとしています。

五年前、平成一〇年に、人間科学科と大学院人間科学専攻を母体にして、文部科学省が募集する学術フロンティア事業に応募しました。「現代人のメンタリティーに関する総合的研究」と題する研究事業です。その研究計画が認められ、助成金が下り、かねてから計画しておりましたカウンセリングセンターを独立した建物として建てることができました。五年間の学術フロンティア事業の研究期間が終わった後、その間に発展した研究拠点を、独立した大学の研究機関として組織化しようという案が浮上して設立されたのが、この甲南大学人間科学研究所です。実は、組織上は昨年一月にすでに開設されましたが、半年間は準備期間に充て、今年度から本格的な研究を始めようということになりました。また、研究所の設立と同時に、今年度から始まる五年間の研究活動も文部科学省の学術フロンティア事業に再申請するため、構想を新しく組み直しました。この申請が認可されるかどうかの返事を問もなくいただけのことになっておりまして、非常に期待しているところです（その後、無事に申請が認可されました）。

これまでの五年間は、「トラウマ」、「母性」、「リアリティーの容」、「心理療法」の四つの柱をたて、研究会を重ね、大規模のシンポジウムを開催し、それぞれを論集として本に仕上げるという作業をしてきました。成果はまず共同研究プロジェクトの

報告書として提出し、現在はそれを元に市販本をつくる作業を進めています。間もなく新曜社から出版され、六月頃には書店に並ぶ予定です。できるだけ多くの方に読んでいただきたいと願っています。

今回新しく研究所が設立され、学術フロンティア事業に再申請するにあたりまして、準備委員の中でブレイン・ストーミングを重ね、現在までの研究成果から今後必要な課題を抽出しました。今日のシンポジウムのタイトルになっております「現代人の心の危機の総合的研究 近代化のひずみの見極めと、未来を拓く実践に向けて」という研究テーマはその結果生まれたものです。サブテーマには、今まで行ってきた四テーマに加えさらに三テーマを掲げ、全体として七つの研究テーマで構成されました。今日のシンポジウムでは、これまでの五年間で扱ってきたテーマの総括を兼ねて、今後五年間の研究テーマをめぐってパネルディスカッションを行います。

甲南大学人間科学研究所は、人間科学という広範な学問領域を含みうる名称を揚げながら、他方で研究テーマを「現代人の心の危機」に絞ることで、現代の人間と社会が経験している様々な問題に、多角的・総合的に取り組むことを目的にしています。甲南大学にはそれぞれの分野で最先端の研究をなさっている非常に優秀な先生方が多数おられます。研究所は、それら内部の先生方にお集まりいただいて先端的な研究を進める器を提供します。さらに阪神地域を中心とする大学その他の研究組織におられて、私たちと連携していただける先生方に客員研究員として加わっていただいています。学内、学外の研究者および

たいと考えています。今後五年間でどんな研究活動ができるか、  
私自身も非常に期待しております。どうぞよろしくお願いま  
す。



開所式のあとの懇親会風景

び研究組織の連携によつて、文字通り最先端の研究をやつていくための拠点となることが研究所の仕事になつてまいりませう。組織体としては大組織ではありませんが、研究を進めていくうえで困難にぶつかることもあるかと思ひますが、先生方にぜひとも積極的に参加していただき、世の中に問うことができる優れた研究成果を出していき